

なごら



Nagoya Nakamura Lions Club



2012.08

国際会長	モットー	「WE SERVE (我々は奉仕する)」
334複合地区	スローガン	「奉仕の世界は 熱い情熱と固い絆から」
334-A地区	スローガン	「知恵あわせ 力あわせて 感動を！」
名古屋中村LC	スローガン	「全員参加で、いつも、いつまでも」

■特集記事■

ACT報告
『薬物乱用防止教室』
『Hot・ほっとキャンペーン』



頁	記事
02	❖ 前回理事会事項と結果
02	❖ 前月例会報告
04	❖ 前月委員会報告、幹事報告
04	❖ 会員情報
05	❖ ACT報告
07	❖ 会員寄稿(L山梨一美)
11	❖ 次回例会案内

■会員寄稿■

「WSEN(世界学生環境ネットワーク)」
L山梨一美

1. 理事会審議事項と結果

(第1号議案) 前回及び緊急理事会議事録確認 《承認》	会 長 P. 2-6	L 野々垣徹
幹事報告で会費未納者1名となっておりますが、全額入金となりました。		
(第2号議案) 第1～3回準備理事会議案 承認事項一括確認 《承認》	会 長 P. 7-16	L 野々垣徹
前期と変わっているところは、運営委員会の中の出席委員会を会員委員会に、事業委員会の方も国際・LCIFを姉妹提携委員会の方でさせていただきます。		
(第3号議案) 入会式の件(増田司馬男様) 《承認》	会員委員長 P. 17	L 速水清朗
(第4号議案) 休会の件(L加藤 昇) 《承認》	会員委員長 P. 18	L 速水清朗
12月末までの6ヶ月間の休会です。		
(第5号議案) 今期予算案の件 《承認》	財務委員長 別紙資料	L 中野利彦
(第6号議案) <6/14>タイ国プリーラム県植樹ACT決算の件 《承認》	前保健奉仕・環境保全奉仕副委員長 P. 19	L 杉山信子
(第7号議案) CN40周年記念大会 海外ACTの件 《承認》	CN40周年記念大会委員長 P. 20	L 鈴木和彦
(第8号議案) その他 《承認》	テールツイスターより	テールツイスタ L 高坂英夫
<ul style="list-style-type: none"> ・例会の時に携帯電話をマナーモードにして貰う。 ・例会の発表中に私語を謹んで貰う。 以上を守れない方からは、ファインを(1,000円)頂きます。 例会の前に会員の皆様にご案内します。		

2. 例会報告

第 941 回 例会

2012年 7月 4日(水) 18:00 ~ 19:30
 於: 名古屋マリオットアソシアホテル

出席者数: 29名
 ファイン・ドネーション: ¥301,828-

* 理事会審議事項議案を承認可決

野々垣会長の最初の例会が、L吉金実行委員により定刻に開会された。
 開会のゴング、国歌斉唱、L種田のライオンズの誓い、ライオンズクラブの歌(1番のみ)と進み、会長挨拶ではクラブスローガン「全員参加で、いつも、いつまでも」にて1年間宜しくと手短かに挨拶。特に全員参加を強調。
 次にL田中スポンサーによる増田司馬男さんの入会式。10年ぶりになる再入会、お帰りなさいと申し上げます。10年前と比べメンバー数が激減しております。即戦力として活躍を期待します。

新旧三役のバッジ交換、前三役に記念品が贈呈された。野々垣新会長(前幹事)、入山幹事(再度)、瀬尾会計(前年より留任)の執行部、皆で応援・協力しましょう。

1R環境保全委員の委嘱状がL瀬尾に伝達された。また、長期在籍表彰45年がL河瀬に送られた(欠席のため発表のみ)。体調が息災であられることを祈念します。

会長は理事会審議事項6)議案を例会に諮り、全議案承認された。

続いて委員会報告に入り、計画・大会委員長L吉金より7月第二例会(7/10 ACT前)の留意説明があった。社会福祉・公衆安全委員長L浅岡より7/10「Hot・ほっとキャンペーン」について、またYCE・青少年指導委員長L村手より7/6、日比津中学校で第1回薬物乱用防止教室を開催、両ACTそれぞれの詳細な説明と参加のお願いがあった。



次に姉妹提携(国際奉仕・LCIF)委員長L田中より「国際平和ポスターコンテスト」応募の願いを中村区の小中学校に出した等現状報告された。また幹事報告にて入山幹事より2012年度上半期分会費及び会員預託金請求書手違いのため8月に出す、会員手帳は周年事業に使用のため今期は1冊の配布とします、1R2Z合同ACT「2012年名古屋駅地区打ち水大作戦」に野々垣会長ら三役と保健奉仕・環境保全奉仕委員会より2名参加する旨報告があった。

7月誕生祝いの後、食事に入る。



テールツイスターL高坂登場で、ドネーションを会員の皆様、出来る限り均等にお願いしたいと思いを語られた。ドネーション報告では氏名を読み上げ前に出るよう言われる。今期最初のドネーションにつき協力者多数。

次いでL近藤靖のリードにて、大多数で笑顔と若さの野々垣会長に『ガンバレ・ガンバレ・ノノガキ』と野々垣丸の出港と成果を願ってエールを贈った(初めてでは?)。

次いでL速水より出席率の報告(本年度は内容を短縮)。L瀬尾より会計報告(多額の協力あり)。ライオンズローアは接待(会則付則、情報)委員長L斎藤靖人により一声の唱和。第一副会長L中川の閉会のゴングで終了した。

記: L 服部吉秀

第 942 回 例会

出席者数: 22 名

2012年 7月 10日(火) 10:00 ~ 10:20
於: 名古屋駅前

～Hot・ほっとキャンペーン例会～

L浅岡晃生の司会で開会、開会のゴングに続いて会長挨拶L野々垣徹。

前日行われた元L加藤音吉の葬儀にふれ、長年当クラブで活躍され、また「音さん」の愛称で呼ばれ皆さんに親しまれた加藤音吉さんに哀悼の言葉を述べた。

引き続き行われる『Hot・ほっとキャンペーン』についての説明と注意事項等を社会福祉・公衆安全委員長L浅岡が全員に伝えた。

その後L入山毅士より幹事報告があり、続いてテールツイスターL高坂英夫から欠席者から3000円、また出席者も健康で参加出来た喜びで1000円、それぞれドネーションで戴くと伝え全員拍手で了承した。

最後に第二副会長L中山恭三の閉会のゴングで10:20閉会した。



記: L 浅岡晃生

3. 各委員会からの報告/幹事報告 等

報告事項

1) <7/10>7月第二例会について

計画・大会委員長

L 吉金 博

例会の受付は9:30より、例会は10:00より20分くらい行います。

2) <7/10>Hot・ほっとキャンペーンについて

社会福祉・公衆安全委員長

P. 21-24

L 浅岡晃生

ACT10:30開始、11:45終了。雨天決行です。

3) <7/6>第1回薬物乱用防止教室について

YCE・青少年指導委員長

P. 25

L 村手 誠

7/6(金)に日比津中学校にて第1回薬物乱用防止教室を行います。集合時間13:30、教室13:55～14:55、3年生127名が対象です。皆様の参加をお待ちしております。ベスト着用。

4) 国際平和ポスターコンテストについて

姉妹提携委員長

P. 26-27

L 田中光男

中村区役所で展示発表を行います。作品の掲示、撤去の際にはメンバーのお手伝いをお願いします。

幹事報告

1) 2012年度上半期会費及び会員預託金請求について

P. 26-27

L 田中光男

手違いで、1ヶ月遅れの8月の第1例会に請求書をお出します。

2) 会員手帳配布について

会員委員長のお陰で、7月第1例会に間に合いました。有難うございました。

3) <7/20>1R2Z合同ACT「2012年名古屋駅地区打ち水大作戦」について

各クラブ4～5名の参加要請がありました。

4. 会員情報

★ お誕生日 ★

8月 5日 L 水谷賢治
8月 16日 L 加藤鋭吉
8月 20日 L 大場民男



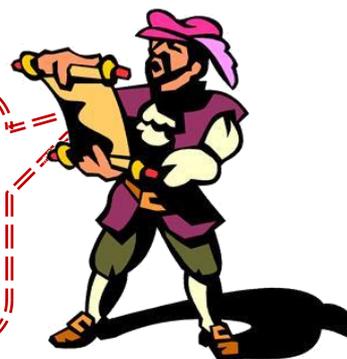
★ 結婚記念日 ★

該当者なし



✦ PR・IT委員会よりメンバーの皆様へ ✦

PR・IT委員会ではメンバー各位からの投稿をお待ちしております
旅行記・随筆・短歌・俳句・クラブ運営・ACTに対する意見、
その他何でも結構です
楽しい会報が出来ますよう、ご協力をお願い申し上げます



5. ACT報告

7月のACT

◆ 7月 6日(金)

第1回 薬物乱用防止教室

21,550 円

於: 日比津中学校

出席者数: 7名

YCE・青少年指導委員長: L 村手 誠

■ ACTの趣旨 ■

薬物乱用防止教室を開催する事によって、思春期で学業以外の影響を受けやすい将来のある中学校生徒に、薬物は案外身近にある事、その薬物を簡単に使用してしまう可能性が高い事を知ってもらい、一度薬物を使用したら脳・体は蝕まれ、後遺症が一生残ってしまう事を理解・認識してもらいます。

「ダメ・絶対!」の合言葉と共に、薬物は恐ろしい物でダイエットやファッション、気晴らしで使用すると一生をダメにしてしまう事を強く心にとめてもらいます。

■ 状況 ■

日比津中学校生活指導課先生の開会挨拶から、橋口校長の挨拶、名古屋中村LCメンバーの紹介、会長L野々垣の挨拶、そしてL村手(薬物乱用防止教室認定講師)の挨拶と講演が始まりました。

DVDの薬物乱用はダメ!なぜ「ダメ!ゼッタイ!」か・・・を15分上映し、再度L村手の講演とトルエンを使った実験(常用者の歯を溶かしてしまう)と「覚醒剤乱用者の母親の手記」朗読、最後に「薬物乱用はダメ絶対!」を生徒の皆さんと唱和して締めました。



■ 感想 ■

生徒が思っていた程ざわつく事も無く、真面目に興味深く聞いていたと思います。

脱法ハーブの事についてももう少し触れたかったのですが、資料が少なく、サンプル(ダミー)を提示した程度に留まりました。

時間を少し過ぎてしまいました。時間配分を考えて原稿を作りましたが、いざ講演してみると、時間調整が難しいです。

■ 結果 ■

生徒が薬物の危険性を理解し、「ダメ!ゼッタイ!」の意義を認識してもらえたと思います。参加していただいた会長L野々垣、前会長L大竹、幹事L入山、会計L瀬尾、L高坂、保護司の立場でも参加されたL斎藤、長時間お疲れ様でした。

※ 時間を過ぎても話続ける私に冷や冷やだったのではないかと思います。

一度他クラブの薬物乱用防止教室を見学して講演スキルを身につけたいと思います。

※写真提供: 名古屋市立日比津中学校

◆ 7月10日(火)

夏の交通安全県民運動 第31回「Hot・ほっとキャンペーン」

(未確定) 円

於: JR名古屋駅正面一帯

出席者数: 22名

社会福祉・公衆安全委員長 L 浅岡晃生



7/11から県内一斉に「夏の交通安全県民運動」が実施されます。当クラブではそれに先駆け、中村警察署他関係団体等と協力して交通安全キャンペーンを実施した。

実施場所はJR名古屋駅正面出入口一帯、市内で最も人出の多い場所だけあって開会と同時に大勢の観衆が集まった。

・ 中村警察署長の挨拶

愛知県は交通事故死が全国一と多く、今年は死亡事故0を目指しているが、既に4件の死亡事故が起きている。どうか運転手も歩行者も充分注意して交通事故が起こらないよう注意して下さい。

・ 名古屋中村LC会長挨拶

悲惨な交通事故が起こらないよう、飲酒運転、スピード違反等は絶対に止めて下さいと聴衆にお願いの言葉を述べた。

来賓には中村区長、一日警察署長(タレントの大東めぐみさん)、トラック協会副会長、安協会長、安管会長が参列した。

一日警察署長・大東めぐみさんの交通安全についてのトークがあり、続いて稲葉地保育園のちびっ子警察官20名と交通安全宣言を行った。

第一副会長L中川の閉会の言葉で式典を終了した。

続いて啓発活動に移り、1000平のうちわを観衆に配布し、閉会と同時に音楽隊のドリル演奏がありHot・ほっとキャンペーンのセレモニーを終了した。



6. 会員寄稿

『WSEN - World Student Environmental Net Work - (世界学生環境ネットワーク)』 保健奉仕・環境保全奉仕副委員長：L 山梨一美

2008年6月、大学と学生が協力して、洞爺湖サミットに集う世界の首脳へ世界の学生たちの意見を提言するために、11ヶ国60名の学生が京都の地に集まり、同志社大学で「世界学生環境サミットin京都」が開催されました。

「世界学生環境サミットin京都」について

◆ 団体名

世界学生環境サミットin京都実行委員会

◆ 団体の設立経緯・目的

地球温暖化問題など地球規模の環境破壊を食い止め若い世代が求め「選びとる未来」について議論するために世界中の学生が連携していくことを目的に世界初の「学生環境サミット」を京都議定書締結の地である京都で開催するために実行委員会を設立した。構成メンバーは同志社大学、京都府、NPO法人及び趣旨に賛同した多くの学生である。

◆ 活動形態

国際会議

◆ 活動分野

地球温暖化防止



◆ 活動の背景と目的

- 1) 地球温暖化問題が危機的状況になっているにもかかわらず、国際社会では各国の利害や先進国と新興国との対立などにより、効果的な施策の合意が得られないでいる。
- 2) このような国際社会の現状を打開し、まずは地球温暖化を防止することにより世界規模の環境破壊を食い止めるため、未来を担う世界の学生が連携することを考えた。
- 3) 上記の目的を達成するために、「京都議定書」締結の地である京都に立地する同志社大学の学生が中心となり、G8の国々や中国、インドなど地球温暖化防止のために協力が不可欠な新興国の学生に呼びかけ、世界初の「世界学生環境サミットin京都」を開催した。

◆ 活動の概要

- 1) 2008年7月に開催されたG8サミット(洞爺湖サミット)へ学生意見書を提出することを目指して2008年1月から実行委員会を立ち上げ準備を進めた。
- 2) 開催日は2008年6月20日から6月22日の3日間、会場は同志社大学としたが、サミット本番までにWeb上での議論を行い、本番での成果達成を確実なものとする努力をした。
- 3) 多額な予算を必要としたサミットを成功させるために、実行委員会では多くの企業、団体へ協力を求めた。趣旨に賛同いただいた企業等からの資金提供と人材提供、学生達への環境教育支援など多様な支援が得られた。
- 4) サミットでは世界11ヶ国から60名の学生が集まり英語による活発な議論を行い、その成果を「学生意見書」としてまとめることができた。



◆ 活動の結果と効果

- 1) サミットの成果である「学生意見書」は、環境省を通じてG8洞爺湖サミットの各国首脳へ届けられた。また、インターネットにより世界に向けて学生の意見提言を情報発信した。
- 2) サミットに参加した各国の学生、大学は、これからも地域環境を守るために継続した活動を行うことに合意した。その成果として「世界学生環境ネットワークを立ち上げ、Web上で世界中の学生、大学が環境問題に取り組む活動を開始した。
- 3) 世界学生環境ネットワークの本部は、同志社大学に設置され、Webによる世界の学生の環境活動をバックアップしていく。21世紀の国際社会の中で環境問題に積極的に取り組むことは、日本にとってのメリットも大きいといえる。
- 4) 「世界学生環境サミット」は、毎年各大学のリレーにより開催することも決定し、2009年はカナダのヴィクトリア大学で6月24日から6月28日に開始される。参加国も18ヶ国となり参加大学も京都の3倍近くに拡大した。

(助成金額 6,000千円)

『独立行政法人環境再生保全機構ホームページ/平成20年度助成団体活動報告集』より

<http://www.erca.go.jp/>

国際的レベルでの意見交換

年一度の環境会議であるWSES(世界学生環境サミット)は、このネットワークにおいて最も重要な行事です。 第一回のサミットについては上述のとおりです。

第二回サミットは、2009年6月25日から28日にカナダのヴィクトリア大学で開催され、18ヶ国から25大学が参加しました。

環境問題の議論として「エネルギー」「大学の持続可能性」「気候変動への地球的対応」等について議論され、その学生意見書は、各参加大学の学長宛に提出された。

なお、この会議においてWiki-earth (<http://www.wikiearth.net/>)というシステムが紹介され、今後世界中の研究者が研究の成果を公開できる場所として発展させていくことが決定した。現時点では、今回のサミット参加者の普段の食生活がどれだけ地球に負荷をかけているか？

(カーボンフットプリント)ということがデータ化され、オンラインに公開されている状態。

『同志社エコプロジェクト』より

<http://eco-pro.doshisha.ac.jp/main.html>

第三回サミットは2010年6月20日から6月26日までドイツ チュービンゲン大学で開催され、世界25ヶ国から44大学80名の学生が参加しました。

今回も現在と未来の世代の環境や社会的ニーズを考えた持続可能な社会の実現に向けて学生の立場から具体的な解決策について意見をまとめました。また、国際的な大学同士のネットワークの構築にも力を入れ、大学内における環境問題の取り組み案についても議論しました。

更に国際的な取り組みへの働きかけを図り、会議の成果は意見・提案書として2010年12月にメキシコ・カンクンで行われたCOP16や、サミット開催国であるドイツの環境大臣にも提出されました。

『greenz.jp グリーンズ | あなたの暮らしと世界を変えるグッドアイデア厳選マガジン』より

<http://greenz.jp/>

第四回サミットは、2011年5月18日から21日の4日間スエーデンのBiekige工科大学で開催され27ヶ国、36大学から80名の学生が集まりました(※和訳がありませんでした)。

第五回サミットは、2012年9月5日から8日までスイスのローザンヌ大学で開催されます。

『World Student Environmental Summit 2012』より ※日本語サイトなし

<http://2012.wsen.org/>

Dr.Rajendra K. Pachauri (ラジェンドラ・パチャウリ博士)

博士は、チュービンゲン大学(TERI)の最高責任者であり、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の議長でもあります。博士は2007年ノーベル賞を受賞しました。

2010年チュービンゲン大学で開催されたWSESに寄せられたメッセージです。

私は世界学生環境会議が、既成概念にとらわれず気候変動の最も重要なステークホルダーである若者たちの声を届かせるための基盤を提供していることを賞賛します。前回のサミットに参加した際、学生たちのスキルアップやローカルイニシアチブを図ることと同時に、気候変動に対する解決策を進展させることに成功している討論の場を見ました。

持続可能でない都市化、産業化、そして農業によって引き起こされた地球規模の環境問題に対処することは各国の経済成長と自然保護において不可欠なものになりました。

今、世界が早期対策による効果を得られるかどうかということに関しては計り知れませんが、対策が遅くなってしまうと経済や生活環境に大きな損失を及ぼすに過ぎません。気候変動という結果によって引き起こされた環境の脆弱性には、知的な討論と革新的な考えによって考え出された集団的行動を起こすために、高等教育を受けた人々の知識と若者の活力が必要です。

特に私はWSESが地球規模に活動を広げ、世界中からの学生代表が参加していることに感銘を受けています。問題に対する認知度を広め、地域社会や世界規模のコミュニティ両方にプラスになる変化をもたらす刺激としての役割を果たす、効果的な会議になることがこのことから期待できます。

WSESは、また、国際赤十字社・赤新月社連盟の特別代表のムケシュ・カピラ氏にも支持を受け、サミットにてスピーチを頂くという形で協力を受けました。

世界学生環境会議は「United Nations World Decade of Education for Sustainable Development (国連持続可能な開発のための教育の10年)」のプロジェクトとしても公認されています。次世代を担う学生たちがグローバルな舞台で行動を起こし、持続可能社会形成におけるリーダーになるための基盤の提供を目指します。

『World Student Environmental Summit 2010 (日本語版)』より

<http://2010wses.org/ja/>

WSES参加学生の感想の一部要約

◇ 第1回、第2回サミット参加学生

昨年のサミットは私にとって大きな活性剤となり、自らの価値観や思考を振り返るきっかけとなった。現在叫ばれている様々な環境問題を知識としてのみではなく、実際に世界中から集結した学生たちと「緊急に取り組むべき個人の課題」としてそれらの問題を再度位置づけ、それらの解決のために今後必要となる協力関係を確認し約束し合えたことは、学内での環境活動のみに及ばず自分の日々の生活の中にも、人生としてのEnvironmentが確かな意識として息づいた。そして今年、カナダの地を訪れ参加した世界学生環境サミットでは、世界の学生の熱意の存在を以前にも増して感じ、問題意識の高さとコミットメントに大きく感嘆した。

私は、言葉や文化・歴史的背景の違いが存在する中で、これだけ大規模なグローバルなアクションを実施できたこと、また、異なる国の大学間でこの活動が歴史を刻み始めていること、これらの事実を心から評価したい。

◇ 第2回サミット参加学生

世界各国の大学から学生が集まることはお互いにとってとても新鮮な場であると同時に貴重な機会であり、サミット期間は終始活気で溢れていたように思う。リラックスした雰囲気の中での議論だったからこそなのだが、議論時間以外の時間も環境に関する話題で真剣に話をする学生が多かった。環境に対する真剣なまなざしと、自分で何かを起こそうとしている熱意が伝わり、たくさんの刺激を受けた。やはり世界の、しかも学生という立場であることは、本当に世界を変えることのできるイニシエーターになれるのだと実感した。

『同志社エコプロジェクト』より

<http://eco-pro.doshisha.ac.jp/main.html>

◇ 第3回サミット参加学生

今回のことでも強く感じたように、メディアからのみでは得られない「生きた情報」を、「学生の目線」から聞くことができます。ニュースや新聞を通してでは、その国の本当に一部(主にトップ)の方々の意見しか知ることができないので国民の考えを直接知ることが、他国に対する真の意味での理解を深める上でとても有効です。これにより、意見が偏らず、とても広い視野で問題を捉えることができました。

6日間という短い間でしたが、信じられないほど成長することができました。最初は連日の議論で疲れを感じたときもありましたが、心の底から真剣に意見を戦わせたことで短い期間でも参加者たちと深くつながることが出来ました。

サミットに参加したことで、次世代リーダーとして、地球環境を改善していかないとけないという使命を改めて感じました。大きな変化をもたらすためにも世界規模で動いていく必要があると考えました。そのきっかけとして、この世界学生環境サミット、そしてサミットが終わった後もずっと続いていく世界学生環境ネットワークを維持していかなくてはならないと考えています。

ネットワークはこれからもどんどん広がります。持続可能な世界を作り、今の美しい自然を次世代に繋げていくためにも、私たち学生は次世代リーダーとして、これからも頑張ります。

『同志社校友会』より

<http://www.doshisha-alumni.jp/>

WSEN加盟大学 (2009年7月現在)

- ・ Murdoch University
- ・ University of New South Wales
- ・ Griffith University
- ・ University of British Columbia
- ・ University of Calgary
- ・ University of Winnipeg
- ・ British Columbia Institute for technology
- ・ University of Toronto
- ・ University of Montreal
- ・ University of Victoria
- ・ Tongji University
- ・ Fudan University
- ・ Cambridge University
- ・ Upeace
- ・ University of Savoie
- ・ University of Tuebingen
- ・ University of Darmstadt
- ・ University of Ghana
- ・ TERI University
- ・ Perivar University
- ・ University of Indonesia
- ・ University of Florence
- ・ Doshisha University
- ・ Hokkaido University
- ・ Yonsei University
- ・ Universidade Eduard Mondlane(UEM)
- ・ Victoria Unjversity of Wellington
- ・ Novgorod State University
- ・ StPetersburg State University
- ・ Uppsala
- ・ Blekinge Institute of Technology
- ・ Yale University
- ・ Stanford University
- ・ Oberlin College

(18ヶ国 34大学)



大学の学生環境団体等の応援の必要性は？

今、環境問題、エコ問題は大きな社会問題として非常に重要視されています。全国の大学でも学生の環境サークルやエコサークル、研究会などが各大学や地域で活動しています。

2003年からは毎年全国大学生環境活動コンテスト(通称eccon)が開催されています。北海道から沖縄まで全国から熱い思いや様々なアイディアを持った大学生がたくさん集まります。エココンは、コンテスト以外にも交流会や分科会があり、社会人の方々や、他の参加者との意見交換ができ、交流も深まります。その中で分かったことは、それぞれが予算や環境に恵まれず、厳しい活動状況にあるという悩みを抱えているということです。

識者によると今の学生について種々問題もあるが、反面問題意識も強くよく勉強し、問題提起の力も高いといわれています。LCでは「薬物乱用防止教室」「YCE事業」「ライオンズクエスト事業」など強い自覚を持った青少年の育成事業に力を注いでいます。この観点から見れば環境やエコ問題に活躍する学生を援助育成することもLCの事業活動に合致するのではないかと思料します。

当クラブのメンバーの中にも東海地方の大学のOBの方が多数お見えです。母校のOBとして母校の学生環境、エコサークル等と連携しYCE事業と同じように学生やサークルを援助し、また、クラブにも刺激を与え新しいACTを芽生えさせ、サミット出席学生の感想の中にあつた、サミットを実施できたこと、異なる国の大学間でこの活動が歴史を刻み始めているとの実感、世界を変えることのできるイニシエーターになれるとの実感、次世代のリーダーとして頑張りたいとの決意等々、また、パチャウリ博士のメッセージに在った「気候変動という結果によって引き起こされた環境の脆弱性には、知的な討論と革新的な考えによって考え出された集団的行動を起こすために、高等教育を受けた人々の知識と若者の活力が必要です。」との言葉の通り、環境問題を理解し、環境問題に強い国際人を育成するためのプログラムを創生し実行することが必要ではないかと思います。



7. 次回例会案内

第 943	◎ 例会	1R2Z合同ガバナー公式訪問例会
2012年 8月 21日(火)	12:15 ~ 14:00	於: キャッスルプラザ

第 944	◎ 例会	ZC訪問例会(クラブ誕生例会)
2012年 9月 5日(水)	18:00 ~ 19:30	於: 名古屋マリオットアソシアホテル

第 945	◎ 例会	LCIF・会員増強例会
2012年 9月 19日(火)	18:00 ~ 19:30	於: 名古屋マリオットアソシアホテル

2012年度会報誌 8月号	2012年 8月 1日 発行
ライオンズクラブ国際協会334-A地区1R2Z 名古屋中村ライオンズクラブ	会 長 ◆ 野々垣 徹
〒460-0003 名古屋市中区錦3-8-14 名電ビル4F	第一副会長 ◆ 中川法 恵
http://lions-c.jp/nakamura/	幹 事 ◆ 入山毅 士
	会 計 ◆ 瀬尾昌 信
	PR・IT委員長 ◆ 服部吉 秀